

ベニバナツクバネウツギ *Abelia spathulata* Sieb. et Zucc. var. *sanguinea* Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 2、総点 11。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が少ない。

【形態】

落葉性の低木。密に分枝し、高さ 2m くらいになり、樹皮は灰色である。葉は対生し、短い柄があり、葉身は広卵形～長楕円状卵形、長さ 2～5cm、幅 1～3.5cm、先は鋭尖形で尾状にのび鈍端、基部はくさび形または円形、辺縁には粗く不規則な鋸歯がある。花期は 4 月下旬～6 月、花は短枝の先端に 2 個つき、がく片は 5 個、へら状倒披針形で長さ 6～8mm、花冠はツクバネウツギより小さく、長さ 1.5～2.5cm、濃赤褐色で、内側に淡紅色と橙色の網目がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 44825, 1993-6-27)、2 豊根 (芹沢 82889, 2008-6-7)、4 津具 (芹沢 87293, 2011-8-27)、6 設楽西部 (小林 37803, 1992-6-14)。西：5 稲武 (畑佐武司 8128, 2011-6-16)。

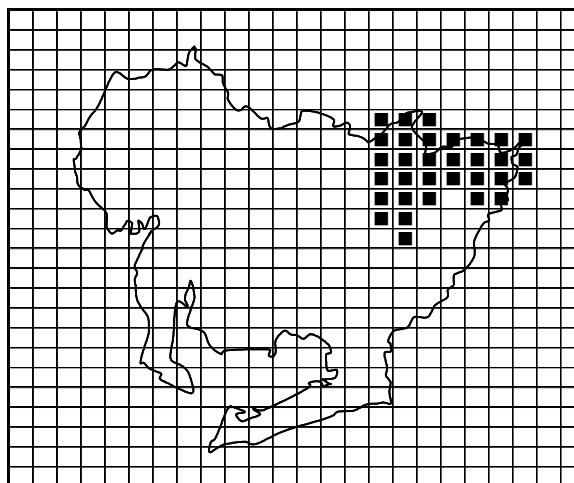
【国内の分布】

本州 (関東地方、中部地方)。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や林内に生育する。基準変種のツクバネウツギ var. *spathulata* と異なり山地性の植物で、丘陵地には見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内での分布は、東北部の山地に限られている。ブナ林や二次林、一部では造林地の林内などに生育しており、どこにでもあるというものではないが、ある場所では生育状態は比較的良好である。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所でも生育できる低木で、林地そのものがなくならなければ現状のまま存続するものと思われる。

【特記事項】

「日本の野生植物」木本編Ⅱおよび同改訂新版 5 では、ベニバナツクバネウツギという和名が使われている。葉の先端が尾状に伸びるので、花がなくても識別は可能である。

【関連文献】

保木本 I p.26, 平木本Ⅱ p.237, 平新版 5 p.416.